

「加熱式たばこ」リスクと規制

煙が出ない「加熱式たばこ」を飲食店における禁煙規制の対象とするか否かで、東京五輪・パラリンピックに向けた受動喫煙防止対策を巡って国と東京都の対応の相異を紙上で目にします。

厚生労働省案は屋内禁煙規制の対象に店舗面積による一定の線引きを設けていますが、当面は「加熱式たばこ」は「紙巻たばこ」と同様に扱う構えの様です。

一方、東京都が制定を目指している罰則付きの受動喫煙防止条例案は、従業員を雇用している飲食店は店舗面積にかかわらず原則屋内禁煙とする方向で調整に入りましたが、「加熱式たばこ」は規制の対象から除外の方向で検討が進められています。

都は規制に対する一般からの意見公募で、「加熱式たばこ」を規制の対象とすることに反対意見が多数寄せられたことをも踏まえた結果のようです。

禁煙ネット石川の理事、野村英樹先生は「加熱式たばこ」が健康へ及ぼす影響を懸念し、安易に手を出さないよう呼び掛けました。

北 陸 中 日 新 聞 2018年(平成30年)4月17日(火曜日)



加熱式たばこ 安全と言えず

禁煙ねっと石川は一月、金沢市内であった成人式の七会場で新人四百九十七人に、喫煙についての恒例のアンケートを行った。今年から、「加熱式たばこは安全だと思つか？」という設問が加えられた。喫煙者六十四人に限ると、「安全だと思つ」は17・4%で、「安全だと思わない」(38・3%)の半分以上だったが、「分らない」が44・3%いた。また、「安全だと思つ」は35・9%で、全体と比べて割合は約二倍だった。

禁煙ねっと石川の理事で金沢大付属病院総合診療部長の野村英樹さん(左)は「煙やにおいがせず、クリーンなイメージ」で吸い始める人も多いが、さまざまな有害物質が検出されていて安心安全とは言えない」と強調する。

米国・カリフォルニア大サンフランシスコ校は、こんな実験結果を、インターネット上に上げている。米ファイリップモリス社の「アイコス」をラットに吸わせたところ、ニコチンの血中濃度が紙巻きたばこよりも高いラットがいたという。

野村さんは「依存を高める可能性がある。依存症になると、脳の報酬系の働きを弱め、日常生活の喜びや意欲が感じにくくなり、やめられなくなってしまう」と語る。加熱式たばこの周りへの影響についても、「臭いが少なくても喫煙者が吐く『呼出煙』が発生し、受動喫煙につながる」。

「加熱式たばこの害が少ない」という医学的な根拠はない。リスクを理解して吸うのは自己責任だが、安易に手を出さないでほしい」と話す。

加熱式たばこのリスクを指摘する野村英樹さん(左)金沢大付属病院で